

岡山大学広報

いちよう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY

リスクは計算してとれ。
危ない橋は走って渡れ。
研究者がイノベーターへ昇華するとき

Vol. 91

2019

CONTENTS

キラリと光る研究大学へ
広い世界で活躍する岡山大学の学生たち
学都基金の紹介 HISTO-REAL / OU NAVI

夕闇せまる東京芝浦の岡山大学東京オフィス。
窓に映る東京タワーを背にたたずむ二人の研究者。
歩んだ道もキャリアも違う二人が交わす言葉の数々。
研究者としての心得、ふるさと岡山への想い、
ベンチャーの意義、若き研究者へのエール…etc.
“リスクは計算して敢えてとれ。危ない橋は走って渡れ”。
菅教授の忌憚のない言葉に頷く榎野学長。
次代を切り拓くための研究者の在り方。
研究者がイノベーターへと昇華するためのヒント。
それぞれの想いが溢れ出た熱き時間を切り取る。

リスクは計算してとれ。
危ない橋は走って渡れ。
研究者がイノベーターへ昇華するとき

岡山大学 エグゼクティブ・アドバイザー
東京大学大学院理学系研究科 教授

菅 裕明

Hiroaki Suga



岡山大学 学長

榎野 博史

Hirofumi Makino



profile

菅 裕明

〈すが ひろあき〉

1986年岡山大学工学部を卒業。1994年マサチューセッツ工科大学Ph.D.、岡山大学エグゼクティブ・アドバイザー、東京大学大学院理学系研究科 教授。専門分野は生物有機化学、ケミカルバイオロジー。翻訳と酵素等の生物マシナリーを人工的に組み合わせて、新規骨格をもつ化合物の高多様性ライブラリーを合成、それをディスプレイシステムに応用して短期間で高活性の化合物を発見する技術の開発を手がける。2006年にペプチドリーム社を創業。2012年上場。2017年に新会社ミラバイオロジクス社を創業し、現在は事業展開を進める。

研究から創薬ベンチャー立ち上げへ。研究者のひとつのロールモデル。

榎野博史学長（以下、榎野） 菅先生には、昨年2月に岡山大学のエグゼクティブ・アドバイザーとしてご就任いただきました。その時、我々が菅先生に何を期待していたのかを率直に申しますと「研究者として進むべき方向性を体現された方、ひとつのロールモデル」と言えると考えています。そして、私たちはそのロールモデルを目指していかなければと。

率直なところ私たちの依頼を、菅先生はどう思われましたか？

菅裕明エグゼクティブ・アドバイザー（以下、菅） 素直にうれしかったですね。岡山大学は私の出身校、そして私自身岡山生まれの岡山育ち。今は東京大学で教鞭をとっていますが、地方大学の重要性は以前から感じていました。自分の母校に意見できる素晴らしいチャンスを与えていただいたと感謝しています。

榎野 菅先生の研究成果を伺うと、まさに大

学発のベンチャー、そして産学連携による研究開発のモデルケースともいえる功績ですが、菅先生自身は会社を立ち上げられてからもあえて経営にはかわらず、研究に専念されていたとお聞きしました。その辺りの意図は？

菅 ペプチドリームを創業する際、私には私なりの勝算と夢がありました。まず、2004年当時「特殊ペプチド創薬」が、ある意味Visionary（夢的な創薬アプローチ過ぎて製薬会社にまだ認められていなかったこと。加えて特許戦略が立てやすいプラットフォーム技術だったこと。次に自分の技術を信じて、その技術を社会に還元する夢を叶えたかったこと。そして研究者として、自らの研究に専念することで、アカデミアの自由研究を守りたいという想い。そうした考えが創薬、そして次なる研究活動へとつながっていました。

榎野 研究とビジネスを明確に分離させるこ

菅、ビジネス化に関してはその道のプロにお任せしています。

岡山大学の研究室で学んだ“化学の未来”。

榎野 岡山大学に在学していた時の学部、学科は工学部工業化学科ですね。

菅 はい。今でこそ「ケミカルバイオロジー」なんていう言葉がありますが、当時は日本で生物と化学の中間をやっている人はほとんどいなくて、生命有機化学という概念もなかったですね。

榎野 確かにおっしゃる通りですね。それが今や最先端の研究分野として注目されていますが、。ちなみにお聞きしたところによると、菅先生はギターが好きでミュージシャンを目指していた時期もあったとか。

菅 その話ですか（笑）。ギターは13歳の頃から弾き始めて、高校時代はバンドを組んで音楽に夢中でした。岡山大学では、ジャズ研究会に所属していました。岡大のジャズ研は、今でもミュージシャンとして一線で活躍されている先輩方もたくさんいらして、当時もレベルは非

とで大学の独自性や自由な研究環境を守るという発想ですね。

菅 Research&Developmentと言われるように研究と開発は本来別々のものです。大学はDiscovery（発見）とInvention（発明）に専念して、開発と事業化はベンチャーで広げていく。質の高いアカデミックな研究環境を維持するにはそうした棲み分けが重要だと思います。

リスクは計算してとれ。危ない橋は走って渡れ。

榎野 着実にキャリアを積み、世界的にも成功を収めてきた研究者として、次世代を担う若い研究者や学生たちに研究活動が続けていく上でのアドバイスや指針がありますか。

菅 「リスクは計算してとれ」です。「危ない橋は走って渡れ」も加えます（笑）。科学知の具現



常に高かったんです。私自身、今もギターは続けていて先日知り合いに誘われて岡山市表町のライブハウスで演奏しました。

榎野 音楽に夢中だった学生時代。それがいつしか研究者の道へ。きっかけは？

菅 恩師である鳥居滋先生との出会いです。鳥居研究室に入ってからは一気に研究の方に夢中になりました。それまではギターばかり弾いていたのが一旦ギターは置いて、。いろんな意味で「研究すること」の面白さを知りました。それまで学んでいたのは「化学の過去歴史」でしたが、鳥居研究室では未来を学びました。自分たちが歴史を作るといふ高揚感、新しいことにチャレンジできる喜びを体感しました。要は歴史を自分で作っていくのが一番面白いんです。その後師事した田中秀雄先生との出会いも研究者としての大きなステップでした。

榎野 私も腎臓に興味を持ったそもそのきっかけは「糖尿病になるとなぜ腎臓が悪くなるのか？」という素朴な疑問からでした。研究者として、このシンプルな命題を追い求めてきましたが、いまだに答えは見つかっていません。

菅教授が立ち上げたバイオベンチャー、ペプチドリーム株式会社

2006年7月、菅教授が創業者の一人として立ち上げたペプチドリーム株式会社は、人体に存在しない「特殊ペプチド」を人工合成し、創薬へ結び付けることに世界で初めて成功した東京大学発のバイオベンチャー。同社が有する独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS (Peptide Discovery Platform System) は、薬のもととなるヒット化合物の創製やリード化合物の選択等を短期間で行うことができることから、経口吸収性に優れた低分子治療薬や、特定の体内組織へ選択的に薬を届け、治療効果の最大化につながるペプチド薬物複合体への展開が可能。現在は世界中の戦略的パートナーと、疾患領域や薬物の投与経路等を問わず、それぞれのターゲットに対するヒット化合物の探索などを行っている。創業から7年後の13年6月には東証マザーズに株式公開、その後、15年12月に東証1部に市場変更した。18年9月末時点で、企業との共同研究のプログラム数は89を数え、創業共同開発のアライアンス・パートナー企業は国内外のトップクラスの医薬品メーカーがずらりと並んでいる。

創薬技術のカギ「特殊ペプチド」と「フレキシザイム」とは？

特殊ペプチドは、天然型のペプチドを真似た物質。ペプチドとは、20種類のアミノ酸が組み合わさって作られた化合物のこと。食べ物など口から摂取すると、身体の中で分解される。しかし、薬として細胞中にまで届きやすくない場合、は、体内で分解されないアミノ酸が必要になる。天然物の中にも分解されにくいアミノ酸を含んだペプチドは存在しているが、見つけるのが非常に困難。昔の研究者はそうした「奇跡の薬」を求めて、山の奥地まで行って、さまざまなキノコやカビなどを採取していた。そこで、菅教授が取り組んだのが「天然物の構造を真似て、体内で分解されにくい特殊ペプチドを人工的に作る」という研究。ただ、これまでは特殊ペプチドの翻訳合成は不可能に近かったがそれを可能にしたのが、菅教授チームが開発した「フレキシザイム」と呼ばれる人工RNA触媒。フレキシザイムは、ペプチドが合成される際の遺伝暗号をハッキングしてタンパク質には含まれていない特殊なアミノ酸を遺伝暗号に指定できるため、特殊ペプチドが自由自在に合成できるようになった。



化には当然リスクが伴いますが、とらなければイノベーションは無い。ただそのリスクは要所要所で計算さえしていれば、決して致命的にはなりません。逆に計算せずにリスクをとる行為には何の意味もない。イノベーションの源とそのプロセスを精密に見極めること。そう信じて私は研究に取り組んできました。

榎野 チャレンジ精神、いやアドベンチャー精神ですね。失敗を恐れないしたたかさ、強さでしょうか。私自身、団塊世代で常に周囲に揉まれて育ってきました。末っ子ですしね。医学研究のために留学しましたが、その時も「アメリカに行きたい！」という強い一心からでした。

菅 榎野学長の旺盛な好奇心、探究心がうかがえるエピソードですね。実は私もペプチドリームからは退いて、今、新しい会社を立ち上げている最中です。「ミラバイオロジクス」という社名で、「ミラ」は未来とミラクルを意味しています。簡単に言えば、細胞で作ったタンパク質をそのまま薬にするという事業ですが、私は今まで通り、研究に専念して設立や今後の経



SDGsアワード受賞国立大学として 私たちにできること。すべきこと。

榎野 2年前、学長に就任した時の「榎野ビジョン」で、私は「国連SDGsの達成に貢献します」と宣言しました。おそらくその当時は、学内外の多くの人々、そして私自身すらも、SDGsが何たるものか、十分には分かっていなかったかもしれない。それが、たった2年で、SDGsを推進する私たち岡山大学を取り巻く環境は大きく変化しました。今では、唯一の「ジャパンSDGsアワード受賞国立大学」として、国内だけでなくヨーロッパ、アメリカ、そしてASEAN諸国からも多くの素晴らしいオファーをいただく程、SDGs推進大学としての本学のイメージが定着しつつあります。



菅 先ほど話した鳥居先生はその当時（1980年代）、環境にやさしい化学なんて認識が皆無の時代に「公害のない化学プロセス」を提唱されていました。まさに先見の明。今でいうSDGsの先駆けです。そういった意味で化学はSDGsにふさわしい研究分野で、人類の健康や幸福に貢献する可能性を秘めています。

榎野 日本を代表するSDGs推進大学として、世界から認知され始めた岡山大学ですが、ここで立ち止まることなく、地域に根ざし、世界に輝くSustainabilityとWellbeingを追究する研究大学として、新たな、そして大きな一歩を踏み出していきます。最後に、学生や研究者たちにエールを。

菅 よく講演会などで使わせてもらっているのは、吉田松陰の言葉。「夢なき者に理想なし、理想なき者には計画なし、計画なき者に行ないし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」。またステイブ・ジョブズの「絶対に真似できない、真似しようとすら思わないレベルのイノベーションを続ける」も好きな言葉です。でもやはり一番伝えたいのは私自身の研究哲学。「異端は認められた瞬間に先端に変わる」。これをこれからのイノベーターたちにエールとして送りたいですね。

学内外で連携して 価値創造を加速する。

榎野 岡山大学でも、平成30年5月に工学部の産業技術研究に取り組む有志を中心に、地域企業などとリンクした「オープンイノベーション機構設置研究会」を設立しました。今後、本学独自のオープンイノベーションをさらに加速させるためにも、菅先生にはこれからも忌憚のないアドバイスをいただけたらと思います。「Move on Now」、まさに今こそ前進する時です。本日はありがとうございました。

Move on Now
今こそ前進する時。

榎野博史

異端は認められた瞬間に
先端に変わる。

菅裕明

リサーチ・ユニバーシティ

キラリと光る研究大学へ

文部科学省の「研究大学強化促進事業」にも選ばれている岡山大学。その研究力を推進するための新たな取り組みとして本学は2018年10月、「研究教授制度」の新設と、「重点研究分野」、「次世代研究拠点」、「次世代研究育成グループ」の選定を行いました。

リサーチ・ユニバーシティとして世界を牽引していく拠点の形成を目指します。

研究教授制度

研究教授制度は、研究実績があり、研究代表者として外部資金を獲得して研究マネジメントを行っている准教授に「研究教授」の称号を付与する制度です。研究教授に認定されると、獲得した外部資金のうち、大学に配分される間接経費の一部が、本人への配分額へ上積みされるなどの優遇が受けられます。また、部局の管理運営業務を減らすなどの支援も行い、研究活動に専念できるようにします。

認定には、国際的に認められる論文を書いていることや、競争的資金獲得の基準額などの条件を満たしていることが必要で、これまでに6人を認定しました。

※2019年2月末現在

昨年度11月16・29日には、第1回目の称号付与式が津島キャンパスで行われ、榎野博史学長が「研究を通じて社会に還元していきたい」と述べ、称号付与者に認定証を手渡しました。



第1回研究教授称号付与式
(左から宮地准教授、仁科准教授、榎野学長、佐藤准教授、河原准教授)



榎野学長から研究教授の称号付与を受けた宝田准教授(右)



平木准教授(右)

付与者	
河原 伸幸	(大学院自然科学研究科)
佐藤 伸	(異分野融合先端研究コア)
仁科 勇太	(異分野融合先端研究コア)
宮地 孝明	(自然生命科学研究支援センター)
宝田 剛志	(大学院医歯薬学総合研究科)
平木 隆夫	(大学院医歯薬学総合研究科)

重点研究分野、次世代研究拠点、 次世代研究育成グループ

研究教授制度とともに岡山大学の研究力を高めるため新設された「重点研究分野」。昨年10月、岡山大学を代表し、次世代研究を拓く強みとなる15の中領域を選定しました。選定は先進医療研究、農業系科学、革新材料・次世代デバイス技術、地域研究・政策研究など多岐にわたります。これまでの全方位的な研究推進を見直し、限られた人材、モノ、資金などを効果的、重点的に配置します。

また、重点研究分野を「岡大の顔」となる学術研究拠点、社会実装拠点へ育てるため、5つの「次世代研究拠点」と17の「次世代研究育成グループ」を選定しました。次世代研究拠点は、本学の次世代の学術研究、社会実装拠点として強みあるグループを形成し、大型外部資金の獲得を目指します。また、当該分野の中核的な研究者との連携、海外研究機関との連携を推進します。次世代研究育成グループは、次世代研究拠点につながるグループを担うため、学内外での連携を強化促進し、研究チーム

重点研究分野	
大領域	中領域
基礎科学領域	環境・文明ダイナミクス
	先端数物系科学
	植物科学
	動物科学
SDGsに貢献するイノベーション領域	先端測定・解析技術
	先進的材料科学とナノテクノロジー
	農業系科学
	Society5.0を支えるICT
医療研究領域	革新材料・次世代デバイス技術
	環境保全・環境修復技術
	地域研究・政策研究
	戦略医療系研究
臨床応用を目指す	先進医療研究
	先端医療・福祉技術開発
	先端医療を支えるプラットフォーム

を構成して外部資金の獲得や共同研究の拡大などができるようなネットワーク形成を図ります。選定されたグループには活動資金が配分され、グループ形成や研究拠点形成などの強化促進に使用されるほか、研究推進、産学官連携機構やURAといった研究支援部門から担当者をつけるなど、重点的な支援を実施します。今回選定された各グループの代表研究者には若手研究者も多く、若手のうちに次世代を拓く研究ビジョンやマネジメントスキルを磨くことで、本学だけでなく、日本全国、そして世界を牽引するようなグループの形成へとつながります。

岡山大学は強みある分野の強化とともに、次世代を拓くことのできる分野を育てることで、継続的な学術イノベーションの創出を目指します。

HISTO+REAL

HISTORY OF
OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学が歩んだ歴史。

Vol.5 1964- 岡山大学のシンボル誕生秘話



附属図書館といちょう並木(昭和43年)

附属図書館の時計台

南北通りを北に進むと、黄金に輝くいちょう並木の間に、津島地区を見守るようにどっしりと構える時計台。岡山大学といえば、この光景が浮かぶ人も多いかもしれません。いちょう並木とともに「岡山大学のシンボル」ともいえる、附属図書館の時計台。昭和40年3月の図書館の増築とともに設置されたもので、高さは23メートル、鉄筋コンクリート造り。東、南、西の3面に設置された時計は、大学内から見えるように、と配慮されたものです。今や学生や教職員に愛される存在となっている大学のシンボルですが、実は設置当初は「時計台」ではなかったのです。

時計台ではなかった時計台

昭和39年5月、第5代学長に赤木五郎教授が就任します。岡山大学は昭和24年5月の創設から旧陸軍の建物を改築して使っていましたが、15年もの歳月が経ち、校舎の老朽化が進んでいました。そこで赤木学長は教育環境の整備として、在任中の5年間、老朽化した校舎の改築を手がけます。その一つが、附属図書館の拡張です。当時は高度成長期だった中で、全国的にも大学進学者が増えており、附属図書館も狭隘が進んでいました。赤木学長は附属図書館の拡張に合わせて「大学のシンボルになるような時計台を付設したい」と考え、早速設計図を作製し、費用を負担する文部省(現在の文部科学省)へ予算を要求することにしたのです。

予算要求、しかし…

しかし、文部省の担当官に言われた言葉は「全国の大学には、未だに教室さえ足りなくて、屋外で授業をしているところさえあるのに、時計台などもつての外である」。その時のことを赤木学長は「大変な剣幕で、一顧だにしてくれない。言われてみれば、正に、その通りである。仕方なく、一応、引き下がることにした」と振り返っています(岡大広報No.96)。そこで赤木学長は設計を変更し、時計台ではなく「防火水槽」を作ることにして、「岡山大学は池田家文庫(※)など、多数の国宝級の貴重な図書を預かっているため、万一焼失するようないことがあれば一大事である。ぜひ、防火水槽を設置したい」と担当官を説得。ようやく文部省の承認を得て、予算を獲得することができたのです。

※江戸時代に岡山藩主であった備前池田家が所蔵していた藩政資料。

防火水槽から大学のシンボルへ

防火水槽としての設置は認められますが、赤木学長が目指していたのは「大学のシンボルになるような時計台」。なんと、赤木学長は防火水槽に時計をこっそりと設置。文部省の完成検査の際には、事前に針を止めておき、検査官から「時計台は許可しないにも関わらず、作っているではないか」との指摘を受けた際には、「あれは、本当の時計ではなく、単なる飾りにすぎない。その証拠に針は動いていない」と説明したといいます。平成9年3月に時計台よりも高い新館が建設され、その5階に貴重資料

書庫が設置されるとともに防火水槽の役割を終えますが、半世紀以上にもわたる長い間、時を刻み続け、今もなおシンボルとして愛され続けています。

現在の姿

時計台は平成21年3月に耐震工事が実施されました。その際に、むき出しになっていたコンクリートの柱は全体的に白基調へと塗装、壁面のタイルは薄茶色から千葉喬三・第12代大学長時代の大学イメージカラーであるベンガラ色へと変わりました。時計は電気式からLED電波時計へ変わったことで、夜遅くでも正確な時間を読み取ることができるようになり、時計のすぐ下には「鳥のごく未来に向かって羽ばたき、光輝く岡山大学の姿」を表現した学章が入りました。平成26年5月には改修工事に合わせて、時計台の両翼の南面をガラス張りにし、明るく開放的な図書館に。平成27年4月には、本館2階に岡山県産のヒノキを用いた「サルトフロレスタ」、時計台の2階には、備前焼のタイルが壁面に施された「ヒヨセルーム」が完成。岡山らしさあふれる空間ができあがり、学生・教職員、地域の方々からより一層愛されるシンボルとなりました。



現在の附属図書館

参考文献：岡山大学二十年史、岡山大学附属図書館報「楷」、岡大広報、岡山大学史

もう一つのシンボル

中央図書館の玄関脇の大きな楷の木。この木は中央図書館の完工(昭和40年3月)を記念して植えられました。苗木は昭和38年4月に発芽したもので、当時農学部教授であった故・畔柳鎮(くろやなぎしげる)岡山大学名誉教授から贈られました。秋の終わりには真っ赤に染まり、黄金に輝く南北通りのいちょう並木とともに、私たちの目を楽しませてくれます。



石碑

中央図書館の玄関には、楷の木とともに学生を迎え入れる大きな石碑があります。中央図書館が発足した昭和25年当時、蔵書数は分館と合わせて約28万冊でした。岡山大学の前身である医学館明治3年4月創立当時に取得されたであろう受け入れ図書第1号から数えた100万冊を、109年後となる昭和54年2月26日に突破します。これを記念して附属図書館の玄関東側に「附属図書館(揮毫：小坂淳夫・当時学長)蔵書1,000,000冊突破記念」(同：片山嘉雄・当時附属図書館長)と書かれた石碑が建てられました。



時計台から眺めた大学筋(昭和40年代)

岡山大学といえば時計台。いちょう並木をくぐり抜けた真正面に位置し、移りゆく時代とともに岡山大学の歴史を見つめ続けてきました。今では私たちにとって当たり前の存在となっていますが、当初は時計台であって時計台でなかったのです。今号では、半世紀以上にわたり愛され続けている岡山大学のシンボルについてお話ししましょう。

写真

数々の写真コンテストで

賞を受賞

第

40回よみうり写真大賞(読売新聞社主催)の「マイベストフォト部門」第3期で、鹿田写真部の米澤尚汰さんの作品が優秀賞に選ばれた。同コンテストは、プロアマ問わず多数の作品が寄せられ、全国の写真家が腕を競い合う大きな賞だ。米澤さんは写真部の活動で訪れた岡山県赤磐市の廃校で、部員と撮影したポートレート写真を応募。審査員からは「すがすがしい写真」と評価された。第16回「美しい日本を撮ろう」フォトコンテスト(産経新聞社主催)では、優秀賞に次ぐ秀作も受賞した。

米澤さんが本格的にカメラを始めたのは大学に入ってから。1年生の夏にカナダに留学した際、友人が持っている「ミラーレス」一眼カメラと自分の持っているコンパクトデジタルカメラの性能の差に衝撃を受けた。3月のオーストラリア留学ではミラーレス一眼カメラを持参。たまたま写真部に所属していた先輩がおり、写真のいろはを教わったことでカメラにのめり込んだ。帰国後に写真部に入部し、3年生のころにはアルバイト代を貯めて、自分でさらに性能の良いミラーレス一眼カメラを購入した。

写真を撮る際に気をつけていることは「ファインダーをのぞく」こと。デジタルカメラは液晶モニターが付いており、ファインダーの映像を液晶に映して撮影することもできるが、「ファインダーをのぞくことによって、自分の見た世界そのものを写真に映

活躍する

広い世界で

両道

学生たち

岡山大学の

写真は自分の見た世界を伝える手段。
見る人に作品の中の被写体を純粋に
感じてもらいたい。



鹿田写真部 米澤尚汰

よねざわ しょうた
医学部5年

し出すことができる。そうすることで、自分と観客が同じ立場に立てると米澤さんは話す。「写真は自分の感動した物を言語化せずに伝えられる手段。見る人に作品の中の人物や風景を純粋に感じてもらいたい」と米澤さん。
ピアノ部にも所属しており、昨年3月には市内の病院で写真展とピアノコンサートを行った。患者さんからは「米澤さんのおかげでいろいろな景色や音楽に出会え、院内生活がとても豊かになった」という手紙ももらった。

現在は医師になるための勉強をしている。「将来は外科医になり、医療で患者さんを救い、写真や音楽を通して精神的な面でも患者さんに寄り添っていききたい。患者さんが喜んでくれる限り、写真もピアノも続けていきたい」と夢を語る。米澤さんの夢が叶う日は、きっと近い。



第40回よみうり写真大賞
「マイベストフォト部門」第3期
優秀賞受賞作品「写真部」

第16回「美しい日本を撮ろう」
フォトコンテスト
秀作・OHK岡山放送受賞作品
「参詣の賜物」

「第6回日本学生女子アイスホッケー大会で見事準優勝」
真 っ白に続く氷の上を、ゴム製の黒いパックが猛スピードで駆け抜ける。その時速は140kmに達することもあるという。直径はわずか7.62cm。1チーム6人で、ゴールを狙う。
2018年10月18〜21日、北海道札幌市で「第6回日本学生女子アイスホッケー大会」が開かれ、全国16大学が出場した。4ブロックに分かれて行われた予選リーグでは、並び居る強豪校の中、岡山大学が3戦全勝の成績を収め、見事決勝トーナメントに進出。準決勝では、第1回大会優勝校でもある強豪、東京女子体育大学を4対1で下した。決勝では、大会3連覇中の王者である日本体育大学に2対3で惜敗したが、あと一步のところまで追い詰めた勇姿に、会場からは大きな拍手が湧き起こった。前キャプテンの高見七穂さんはその時のことを「部員全員が勝ちたいという目標を持っていたので勝利につながったと思います。一年間の積み重ねが実を結びました」と晴れやかな表情で振り返る。

岡山県は「晴れの国」ともいわれるほど晴れの日が多く、温暖な地域。あまりウィンタースポーツのイメージはないが、岡山大学の強さの秘訣は緻密なミーティングにある。練習は週2回、民間のスケートリンクを借りて行っているが、1回の時間が90分と限られているため、1分も無駄にできない。そのため、ミーティングにかなりの時間を費やしている。リンク練習前のビデオミーティングでは、学年関係なく意見を

日本一のミーティング。

部員全員で勝利を目指す。



高見七穂
米田舞

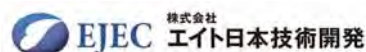
たかみ ななほ
工学部3年
よねだ まい
教育学部2年

アイスホッケー部(女子)

出し合い、課題を共有。リンク練習終了後には反省点を洗い出す。ミーティングは深夜にまで及ぶこともあるという。監督の室山伸之さんは「彼女たちは日本で一番ミーティングをしていると思います」と話す。
岡山大学アイスホッケー部(女子)に所属する部員は、全員が大学でアイスホッケーに出会った選手。昨年10月から新キャプテンに就任した米田さんは「素晴らしい先輩たちばかりで、本当に入部して良かったと思っています。今度は私が新キャプテンとして、先輩と後輩のつなぎ役になり、部を引っ張っていききたいと思っています」と抱負を語る。氷上で繰り広げられる熱い戦いに、これからも目が離せない。



株式会社エイト日本技術開発
代表取締役社長 小谷 裕司



持続可能な社会貢献においては、企業が社会の発展、新たな価値創造につながるものとして、自らイノベーションしていくことが重要です。そのため、地域・社会と共に真のグローバル人材を育成する大学の存在は必要不可欠です。基金創設により、岡山大学が国際的な教育・研究拠点として発展され、グローバル化の推進に貢献されますことを祈念いたします。



株式会社岡山コンベンションセンター
代表取締役社長 橋本 豪介



岡山コンベンションセンターは数多くの学会等の開催により、まさに人、モノ、情報が集い、その結果や成果がさらなる情報発信をするという極めて重要な拠点となっております。この学都基金の活用によりさらなる情報発信で岡山の魅力向上を図って頂くとともに「グローバル人材の育成」を通して地域・社会の貢献に寄与されることを期待しております。



株式会社荒木組
代表取締役 荒木 雷太



当社は建設業を通じ、地域の発展に寄与してまいりました。旧制第六高等学校の伝統を受け継ぎ、さまざまな分野で活躍される有能な人材を育み岡山発展に寄与されてきた岡山大学。グローバル人材の養成やイノベーション創出の拠点としての更なる展開に期待し「岡山大学学都基金」にご協力させていただきます。



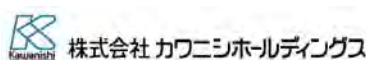
テレビせとうち株式会社
代表取締役社長 土井 雅人



私たちテレビせとうちは、テレビ東京系列局として日本と世界のさまざまな経済情報を地域の視聴者にお届けしています。また自社制作番組「プライド せとうち経済のチカラ」では、毎回エリアの独自性をもった企業を紹介し、地域活性化のヒントを探っています。岡山大学学都基金の活用が、新しいイノベーションを起こす人材の輩出と岡山大学のグローバル化の進展につながり、この地域の活性化がより一層進むことを期待しております。



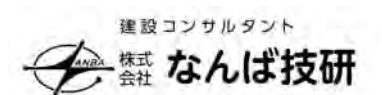
株式会社カワニシホールディングス
代表取締役社長 前島 洋平



当社は、1921(大正10)年に岡山市にて創業して以来、医療器材販売業、介護用品事業を中心に事業を行い、地域医療の充実・発展に貢献してまいりました。「岡山大学学都基金」により、岡山大学のイノベーション創出やグローバル化がますます推進され、日本・世界で活躍される人材を多く輩出されることを期待しております。



株式会社なんば技研
代表取締役 難波 貞敏



”努力を惜みず人と和し 調和ある生活環境を設計する”創業時からの社訓です。世界に羽ばたく多くの若者が、岡山大学で育ってくれることを楽しみにしています。



株式会社ビザビ
代表取締役会長 前坂 匡紀



岡山の元気と魅力創出に取り組むビザビ、その取り巻く環境は技術の進展で大きく変化しています。また社会全体では人口問題や気候変動等多くの課題も生じています。産学連携の下、情報通信等のイノベーションとSDGsに積極的に取り組む、地域に根ざしたグローバルな視野を持った人材育成と、「実りの学都」に期待します。



吉備システム株式会社
代表取締役 松尾 雅卿



日本のみならず世界で活躍できるグローバル人材を、ここ岡山から地域・社会と共に育成しようという「岡山大学学都基金」は、それ自体がグローバルといえましょう。これまでも地元の文化やスポーツを微力ながら支援してきましたが、それを新たな段階へと誘う取り組みの一つとして応援させていただきます。



株式会社サンヨープレジャー
代表取締役社長 高谷昌宏



サンヨープレジャーグループは「遊びは最高の学び」という理念を掲げ、子ども達に「遊び」と「文化」を提供しています。イノベーションに必要な跳躍は「遊び」と「多様な価値観との出会い」から生まれると考えています。学都基金により、岡山大学が学生や若い研究者の跳躍のためのプラットフォームとなることを期待します。



オーエム産業株式会社
代表取締役社長 難波 圭太郎



ネットや交通網の発達で地球が小さくなったように感じられる今日この頃、大切と感じるのは自分の目で観て、自分の耳で聴いて、自分の言葉で話すこと、相手の立場で考え、相手と共感し、いっしょにワクワクできるなかやお互いを尊重した答えを見つけること。目の前の困っている人や困りごとにとさと手をさし出せる人がいいな、そして“ほどこ”に幸せな世界になるといいな☆

地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する

岡山大学学都基金

～ご賛同いただいた
企業様からのメッセージ～

「岡山大学学都基金」は、岡山大学のイノベーション創出、学都創成・

グローバル化の推進などを目的に設立した寄付で成り立っている基金です。

皆さまからの寄付金を活用し、本学の教育・研究を一層力強く進め、

これまで以上に地域・社会に貢献できるよう努力しています。

そして、国際的な教育・研究の拠点としての地位を占めるべく

努力を重ね、ご支援いただいた皆さまとともに、

真に優れたグローバルな大学として益々の発展を目指していきます。

今年度は、イノベーション創出のための産学共同研究強化の支援(マッチング事業)、

留学生支援事業、若手研究者・女性研究者支援、

学都奨学金による学生支援等を実施しています。



ネットヨク岡山株式会社
代表取締役社長 石井 清裕



社会の急激な変化に伴い、地域においても国際水準に基づく人材が求められるようになっていきます。学都基金の充実により、生活環境に恵まれたこの岡山を発信基地として、地域社会への貢献はもとより、世界で活躍できる人材の育成に期待しております。



カモ井加工紙株式会社
代表取締役社長 鴨井 尚志



当社は、「程」を理念とし創業当時より培った粘着加工技術を軸に、徹底した現場主義から拾い上げた顧客の問題を、製品・技術・情報・サービス等あらゆる手段で解決する「問題解決型」の経営を推進しております。不安定・不透明と言われる時代だからこそ、この先時代がどのようなのかを想像(イメージ)するより、この自分達でどのような時代を創造(クリエイト)するかを考え、積極的に行動できる人材が求められています。「YES」からのスタート!そのような人材が貴学で数多く育成・輩出され、地域社会の発展に大いに貢献される事を期待しています。



ナガオ株式会社
代表取締役社長 長尾 聡一郎



弊社は経営理念の一つに『社員と会社の相互成長』を掲げています。この理念が、学都基金の構想とも通じると考え、賛同いたしました。学生の皆さまには、広い視野を持ち、自分の頭で考えて行動できる、そのうえで、外国語でコミュニケーションも取れる『真のグローバル人材』となり、世界中で活躍される事を期待しております。



モリマシナリー株式会社
代表取締役社長 森 郁夫



近年、IoTやAI、ロボット等による技術革新や様々な業界でのグローバル化が急速に進んでおり、これらに対応した人材、リーダーの育成が急がれます。学都基金はまさにこうした高度なグローバル人材育成の一助となる基金であり、岡山大学の優秀な人材が世界レベルで今後更にご活躍されることを期待しております。

お問い合わせ

岡山大学学都基金事務局(総務・企画部総務課) 〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
Tel:086-251-7009 電話受付 9:00~17:00(土・日・祝日除く) Fax:086-251-7294 E-mail:kikin@adm.okayama-u.ac.jp

寄付金の
申込方法

左記連絡先に、住所・氏名をお知らせください。折り返し、パンフレット等を送付いたします。パンフレットに同封の振込依頼書から振込手続きをお願いいたします。インターネットからの申込も可能です。学都基金の詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>

岡山大学学都基金

検索

学都基金HP



米務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」派遣先に決定!! 国立大初、若手人材育成の国際拠点に

LECTURE



関係強化に向けて米務省・教育文化局(ECA)で大学の紹介をする横野学長

全米トップクラスの大学生・院生が日本語と日本文化を集中的に学ぶ、米務省の「重要言語奨学金(CLS)プログラム」の受け入れ先に、岡山大学が国立大学として初めて選ばれました。2019年6月14日～8月10日までの8週間にわたって実施する予定です。日本語を中心とした授業を開講するほか、地域の自然や歴史、文化交流体験を提供します。

来日するのは、国務省により全米約400人の応募者から選抜された26人。本学は週20時間のカリキュラムを用意し、中級・上級レベルの日本語授業を行うほか、地域との交流を踏まえた学外活動を通じ、多角的な実践学習を実施します。また、本学の学生が「日本語パートナー」となって学内外の活動をサポートします。

国務省は今後3年間にわたり本学を派遣先とする方針です。

競技かるた部の畦平さんが 「第25回全日本大学かるた選手権大会」 新人の部で優勝!

CLUB ACTIVITY

「第25回全日本大学かるた選手権大会」が8月12日、滋賀県大津市で開催され、本学競技かるた部の畦平紗永(うねひらさえ)さん(歯学部1年生)が個人戦・新人の部で優勝しました。

競技は、総勢413人を8つのグループに分け、それぞれのグループで頂点を競う形式で開催。畦平さんは「家族や友人、先輩方の応援に励まされ最後まで頑張ることができました。本当にありがとうございました」と支えてくれた方への感謝を述べました。



横井副学長が世界ユースサミット One Young World JAPAN CAUCUS 2018 で柴山文部科学大臣と対談

GLOBAL

本学の横野博史学長と横井篤文副学長(海外戦略担当)が11月30日、世界ユースサミットOne Young World(OYW)の日本集会「JAPAN CAUCUS 2018」(東京都千代田区)に出席しました。

第2部に登壇した横井副学長は、柴山文部科学大臣と日本や海外におけるSDGs(国連の持続可能な開発目標)への貢献について英語で対談しました。

会場にはOYW日本代表団の壮行会を開催した駐日オランダ大使館関係者をはじめ、国内外から現職のリーダーや過去のOYW参加者らも含めた約100人が参加し、熱心に聴き入りました。対談終了後には意見交換会もあり、横野学長と横井副学長は、本学のSDGsの取り組みや、国内・海外における今後のSDGsの発展について参加者らと意見を交換しました。

(写真提供: © em.fotografik | Emerge Inc. <http://www.emfotografik.com/>)

大学祭(津島祭、鹿田祭)を開催

FESTIVAL

本学は11月2日～4日、津島キャンパスで津島祭(3日まで)、鹿田キャンパスで鹿田祭を開催しました。

津島祭は「平成最後の岡大祭～渦巻く我らの大喝祭～」をテーマに開催。会場中がバラエティ豊かな模擬店で彩られ、文化系サークルの展示や音楽系サークルのライブも行われました。清水記念体育館では「BOYS AND MEN」のプロコンサートが行われ、大いに盛り上がりしました。

鹿田祭は、医学展やメディカルチェックコーナー、歯学部学生によるブラッシング指導など医療系キャンパスならではの催しを実施。最上もがさんのトークショーもあり、多くの観客が訪れました。



皇太子同妃両殿下御成婚を記念して始められた 「国際青年交流会議」に横井副学長が SDGsに関するディスカッションの ファシリテーターとして参加

GLOBAL

9月26～28日に開催された、国際青年交流会議(成田市、千代田区)に横井篤文副学長(海外戦略担当)が招待され、SDGsに関する基調講演および皇太子同妃両殿下の視察を賜ったディスカッションのファシリテーターを務めました。

26日には、国際青年育成交流事業により海外に派遣された日本青年および海外から日本に招へいされた外国青年たち約100人に向けて、横井副学長が基調講演を行いました。

横井副学長がファシリテーターを務めた27日のディスカッションでは、皇太子同妃両殿下の視察を賜り、「水と災害」を例に、7カ国の青年9人が、自らの経験や課題について英語で意見を交換。視察の後、皇太子同妃両殿下は一人一人と握手を交わしながら、ねぎらいの言葉を掛けられていました。



横井副学長のファシリテーションによるディスカッションを視察される皇太子同妃両殿下(写真は主催者から提供)

PICK UP!

未知の問題を発見し、未知の解決法を自ら創造する力を涵養 岡山大学「SiEED」プログラムを設置

本学と株式会社ストライプインターナショナル(本社:岡山県岡山市)は、岡山から未来創造に向けた新たな学びの場を通して、新たなビジネスが創出されることを目指し、岡山大学内に「SiEED」プログラムを2019年4月より開講します。

SiEEDは、次世代に求められる思考習慣と“新”基礎概念を学ぶ「基礎プログラム」と、イノベーションに求められる専門知識と応用実践手法を学ぶ「応用プログラム」から成り立ち、インターンシップやさまざまなプログラムと連携。ITツールの活用(教材の公開)や自律的なアクティブラーニングをプログラムに導入し、学生だけでなく、教職員、行政職員、民間企業のビジネスパーソンなど、さまざまな受講生を受入れ、オープンなプログラムを目指していきます。2019年度1・2学期の教養教育科目に4科目を開講します。



ホームカミングデー 2018を開催

EVENT

本学は10月20日、在学生、留学生および教職員が、同窓生や地域の人を招き、大学に親しんでもらうイベント「ホームカミングデー2018」を開催しました。

創立五十周年記念館では、歓迎式典や岡山大学 Alumni(全学同窓会)総会、金光功労賞授賞式などを開催しました。このほか、うらじゃ連「楽鬼(らっき)」による演舞や、学生の音楽系サークル・団体が出演する「ミュージックフェスティバル」、茶道部お茶席などが繰り広げられました。記念館周辺では、初の試みとして、アパレルメーカー・ストライプインターナショナル協力のもと「岡山大学ストライプマルシェ」を開催するなど、多彩な催しを実施。訪れた延べ2000人の来場者は楽しそうに会場を回っていました。

岡山大学では、大学が有する知や技術の成果を社会に還元することを目的に、研究者が最新の科学・研究について紹介する講座や、私たちの生活に身近な情報を提供するセミナーなど、“大学ならではの”イベントを開催しています。学生や教職員だけでなく、地域の皆さまもご参加いただけます。大学に足を運び、学生気分を味わってみませんか？

地岡 域大

岡大と地域の取り組み。
岡大と地域についてご紹介。

File
2

知好楽セミナー



附属図書館では知好楽セミナーと銘打ち、さまざまな分野の有識者による講演や、学生によるトークイベントを定期的に開催しています。「知」を「好」み、「楽」しむことを目的とした図書館独自のプログラム。主には学生が対象ですが、教職員、一般の方も参加できます。開催予定は附属図書館ホームページ(<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>)や公式ツイッター(@OkayamaUnivLib)でお知らせしますので、ぜひご覧ください！



サイエンスカフェ

11学部・1プログラム、8研究科、3研究所を有する岡山大学には、ユニークな研究者がたくさん在籍しています。そんな多種多様な研究者が、研究成果や最先端の研究を分かりやすくみ砕いて説明する



大好評のイベント「岡大サイエンスカフェ」。コーヒーなどの飲み物を飲みながら聞くことができ、初めての方でも気楽に参加できます。聴講は無料。詳しくはホームページへ。
http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/event/sciencecafe_01.html



公開講座

公開講座は、生涯学習の一環として本学の教育を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、教育文化の向上に資することを目的として、各部局が多彩な分野の講座を開講しています。開催時期や対象も幅広く、中には小学生や中学生対象の講座もあります。開催内容はホームページから。
(<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/society/koukaikouza.html>)



Jホール レインボーコンサート

世界的建築ユニットSANAAが手がけたJunko Fukutake Hall (Jホール)。外壁は7枚のガラスを組み合わせてできており、開放感は抜群です。Jホールでは毎月1回、プロの音楽家を招き、クラシックやオペラなど、幅広いジャンルの音楽を披露しています。開放感のあるホールで楽しむ音楽は最高ですよ。開催予定はホームページ(<http://j-hall.med.okayama-u.ac.jp/index.html>)をご覧ください。



スポーツ講座

スポーツ講座ではオリンピック選手の失敗・成功の話から、スポーツ障害、スポーツと法など、一流の講師陣がお話します。高校生や大学生、一般の方が対象です。開講は4月から月1回、年7回開催します。詳しい内容はスポーツ講座のホームページへ掲載します。
<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/shien/sports/kouza/>



学 章

岡山大学広報 いちよう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発行：岡山大学 総務・企画部 広報・情報戦略室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294
E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

<http://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

